

★被災地等を支援する【JOSOたすけあい基金】は注文番号500253にて毎週受け付けています。ご協力よろしくお願い致します。
 ★関東子ども健康調査支援基金【寄付】 注文番号:500252 1口1000円～にて毎週受け付けています。ご協力よろしくお願い致します。
 ★東海第二原発差止訴訟基金【寄付】 注文番号:500251 1口500円にて毎週受け付けていますご協力お願い致します。
 ★JOSO脱プラ基金は注文番号:500254 1口500円にて毎週受け付けていますご協力お願い致します。

COOP-JOSO News Letter



2021年12月2回号 発行:常総生協広報G

2021年度活動テーマ「笑顔で育む免疫力」

もうすぐ師走 年末年始の準備。年末の準備は計画的に！ 年末年始供給スケジュールのお知らせ！！

配送週	日	月	火	水	木	金	土
12月1回供給	11/28	29	30	12/1	2	3	4
	・12月3回・4回カタログ配布 ・12月2回分提出						
12月2回供給	5	6	7	8	9	10	11
	・12月5回・1月1回カタログ配布 ・12月3回・4回2週分同時提出						
12月3回供給	12	13	14	15	16	17	18
	・1月2回カタログ配布 ・12月5回・1月1回2週分同時提出						
12月4回供給	19	20	21	22	23	24	25
	・1月3回カタログ配布 ・1月2回分提出						
12月5回供給	26	27	28	29	30	31	1/1
	変則供給 (注文提出・カタログ配布なし)				冬季休業		
1月1回供給	2	3	4	5	6	7	8
	冬季休業			変則供給 (注文提出・カタログ配布なし)			

今年の年末年始の特別供給は12月5回と1月1回の2週続けて行います!!12月5回は年末商材(お正月関連)と年始商品(通常商品)が合わさった特別号となります。是非お見逃しなく!!



【年始の配達】

- 12月5回(12/27～29)と1月1回(1/5～1/7)は変則供給。1月2回(1/10～)は通常通りの月～金の配達で1月3回の注文提出です!
- マイセット登録商品に関して
12月5回・1月1回の供給時にお届けできない商品もあります。12月5回・1月1回の注文用紙のマイセット・予約商品欄に掲載してお知らせします。ご確認ください。
- 予約商品(野菜セット、お米、鈴木牧場牛乳など)に関して
予約登録した際にお渡ししているスケジュール通りの供給になります。予めご確認ください。お手元にスケジュールがない場合は供給担当、もしくは生協本部(0297-48-4911)までご連絡ください。
- 前日OK商品、ふるさと便・・・12月5回、1月1回は受付けておりません。ご了承ください。

ゲノム編集学習会 開催報告①

2021年11月6日(土)10:00～にZoom(オンライン会議ツール)を使用して「ゲノム編集学習会」を開催しました。

レコーディング中

表示

「ゲノム編集」と従来の遺伝子組み換えの違い

	遺伝子挿入	追加遺伝子の挿入	元の生物の遺伝子の破壊	挿入遺伝子の戻し交配による除去
従来の遺伝子組み換え生物	する	する	しない	しない
「ゲノム編集」生物	する	する	する	する*

* 崩れているはずとされた挿入遺伝子が発見されたケースもあり

次: スライド27 / 54

政府が主張する「ゲノム編集」食品とは？

- 「ゲノム編集は正確に安全に品種改良できる技術」
- 「外部の遺伝子を挿入せず、既存の遺伝子を編集するだけなので遺伝子組み換えには当たらない」
- 「自然界で起きている変異とならん区別ができず、健康に問題が起きるとは考えられない」(だから安全審査も実験も不要)
- 「自然のものとは区別できないので表示義務を課することは不可能」

現在: スライド26 / 54 10:43:51 00:37:21

ミュート解除 ビデオの開始

参加者 17

チャット

画面の共有

リアクション

アプリ

退出

2021年9/15(水)サナテックシード社が厚生労働省の認可を得てゲノム編集トマトの一般販売を開始しました。実際には狙っていない遺伝子が破壊されてしまうオフターゲットの問題や、狙い通りの遺伝子が破壊できた場合でも想定外の変異が起きる問題も報告されています。また、10月下旬には農産物だけでなくゲノム編集技術を用いた「トラフグ」の一般流通がスタートしたとの報道もされております。今回講師として食問題研究者/日本の種子を守る会等でご活躍されている印鑰智哉(いんやくともや)氏をお招きし、上記の問題についての講演いただきました。

●そもそも、ゲノム編集とは？

特定の遺伝子を破壊して、その機能を「知る」ことができます。生命のヒミツを知る上で重要な技術であり、2020年のノーベル科学賞も受賞しました。一方で遺伝子を破壊された生物を環境中に出すことはまったく意味が異なります。「ゲノム編集」は細胞を破壊するだけなので、「科学用語ではなくマーケティング用語にすぎない、“ゲノムスクランブル”の呼び名が相応しい」という有識者もいます。また、ゲノム編集技術は遺伝子組み換え技術と手法の一部はほぼ同じです。遺伝子組み換え技術は特定の遺伝子を入れるパーティクルガン(遺伝子銃)を用いますが、ゲノム編集もパーティクルガン(遺伝子銃)を用いて、遺伝子を壊します。

今作られたゲノム編集されたものは、遺伝子を破壊することしかできていません。遺伝子の一部の機能＝その機能を止めるだけで以下の品種が作れてしまいます。遺伝子には成長過程の「アクセル」と「ブレーキ」の役割をする部分がありますが、その「ブレーキ」部分を壊すことがゲノム編集です。

- バランスを失わせて性格を変える
 - 収穫量の多い小麦(成長抑制遺伝子を破壊)
 - 栄養強化した品種(GABAの多いトマト、抑制遺伝子を破壊)
- 特定のタンパク質を作れなくする
 - 米、麦など(菌病耐性品種)
 - 変色しない白色マッシュルーム(変色させる遺伝子を破壊)
- 特性を変えて育てやすくした魚・昆虫
 - 凶暴性を無くしたサバ
 - 大量繁殖に適したコオロギ

これらの技術は、特定の機能を失った生物を生み出すことを意味します「機能欠損品種」。つまり新しいというよりは、通常の能力を失うということ...それが新品種と呼べるのか？はたして生命力はあるか？...

●ゲノム編集は正確な技術？

DNAの類似した配列があると、目的ではないDNAを破壊することが起こりえます(オフターゲット)。政府はオフターゲットをしていないもののみを商品化すると話していますが、今は狙い通りのものを壊す(オンターゲット)ことが問題視されています。正確に狙えたとしても、できるのはその目的遺伝子の破壊だけで、破壊された遺伝子がどのように修復されるかまでは運ませ、想定しない変異が生まれる可能性は十分にあります。

実際にアメリカの科学雑誌「ネイチャー」2020年9月号にて「染色体破砕」の記事が出されています。1つの遺伝子を壊すために数千～数万回ものパーティクルガンを打ち、打ち続ける事で遺伝子が損傷するだけでなく、遺伝子を包んでいる染色体をも壊していきます。良くて壊れる、悪ければ**がん細胞に変異すること**もネイチャー誌に書かれています。この問題は遺伝子組み換えでは起こりえない問題です。

「ゲノム編集」食が安全とは言えない理由

- 「自然と変わらないから安全と考えられる」で済ませ、実際にそれを食して安全を検証する実験がされていない。
- 発がん性、アレルギーやその他毒素の生成の可能性は十分に考えられる。
- 「ゲノム編集」開発者たちを含む18名の科学者たちが、人の生殖細胞へのゲノム編集技術使用のグローバルな禁止を訴えている(2019年3月)。
 - 万が一、人間の赤ちゃんに使用した場合、告発される恐れ(倫理的問題)！？人間は禁止でイネやトマトは良いのか...

●政府が主張する「ゲノム編集」食品とは？

- 「ゲノム編集」は正確に安全に品種改良できる技術。
- 「自然界で起きている変異と何ら変わらない、健康にも問題が起きるとは考えられない」=だから実験も不要。
- 「自然のものと区別できないので、**表示義務を課すことは不可能**」

ゲノム編集技術で得られた生物に係る情報提供のお願い

環境省及び関係省庁では、ゲノム編集技術で得られた生物に関し、生物の多様性への影響に係る知見の蓄積と状況の把握を図ることとしております。

ゲノム編集技術で得られた生物を作成又は輸入及び／又は使用等*する方は、既に当該生物が遺伝子組換え生物に該当しないことを確認している場合も、作成又は輸入及び／又は使用等に先立ち以下について主務官庁に**情報を提供してください**。

なお、本取扱いの他、輸出に際し、相手国が別途要件を定めている場合については、それに従ってください。

*使用等：食用、飼料用その他の用に供するための使用、繁殖その他の育成、加工、保管、運搬及び廃棄並びにこれらに付随する行為

政府のチランは、情報提供の「お願い」だけで義務ではありません。該当の遺伝子が入っているかどうか？のみで、それが入っていなければ、該当しないので規制対象外とする。上記のオンターゲット後の効果検証まではおこないません。

(政府の手続きの違い)

遺伝子組み換え	「ゲノム編集」
栽培実験申請→栽培データ提出・流通に向けた申請→審査→承認(最初の申請から承認まで数年かかる。審査は基本公開)	<p>「ゲノム編集」食品(農産物、畜産物、水産物)の場合は、遺伝子組み換えではない(遺伝子が残っていない)など情報を政府機関と「相談」し、「確認」すれば届け出だけで良い。(申請→審査→承認のプロセスは存在しない)</p> <p>★既に届け出された「ゲノム編集」生物を親として作った後交代配種(植物、動物、昆虫含む)は届け出も不要。</p>

★つまり表示義務もなく、どのタイミングでゲノム編集食品が一般流通され、自分たちの手元に来るか分からない。このような将来が近いうちにやってくるかも知れません。

※次回は、世界的にみたゲノム編集の規制状況、日本に流通しているゲノム編集食品、またゲノム編集に対する対策など記載をしていきます。

理事会よもやま通信

発行 常総生活協同組合理事会
TEL0297-48-4911
FAX0297-45-6675

常総生協はみんなの「ほしい！食べたい！知りたい！」を応援します

長島さんち 農業とわたしたち。



援農@大豆プロジェクト

11月10日、行方市の長島さんの畑に行ってきました。私自身、長島さんのところに伺うのは四度目。一度目は理事になる前で、玉ねぎの種を撒きに行きました。そこからなんだかんだ二年半くらい伺えていなかったのですが、今年の夏、大豆プロジェクトが始まった際に担当になりたいと手を挙げ、少しずつ伺えるようになりました。

長島さんご夫婦はとても魅力的です。一緒にお話している時、お二人が笑ってくださるだけでほっとして、気持ちよくなってしまいくらい。お宅にいる猫や名古屋コーチンも、お二人の手柄が伝わっているのか、とっても仲良くしてくれません。(牛乳の鈴木牧場さんの牛さんたちも、すごくいい子たちばかりだったことを思い出しました。)

そんなお二人の畑に行けば、またその魅力が土になり、自然とバランスを保ちながら農業をされていることが分かります。

先日、私の自宅でのブロッコリー栽培について長島さんに相談しました。苗を植えたところモンキチョウの青虫がたくさんついてしまい、青虫は可愛いけれどそのままにしておけばブロッコリーがやられてしまうし、虫と戦わなければ作物は育てられないのかと、少々悩んでいたのです。



すると長島さんは、「酢を薄めて撒けば良い。虫が寄って来なくなるから戦わなくてすむよ。」と教えてくださいました。最初から自然の力を使って、虫も植物も人間も共存していくのですね。また作物は、堆肥(長島さんの畑ではおがくずを発酵させたもの)だけでは育たないため、微生物を使って発酵させた肥料を途中で土に混ぜているとのこと。生物と作物・自然や様々な物質との均衡を上手く保ちながら、農業をおこなっていらっしゃるのだなと感じました。

今回はそんな学びの中、レジエント組合員さんと理事三人で、玉ねぎの苗を植えるお手伝い。長島さんの畑で、自然の力とバランスを感じながら、心洗われる思いがした援農でした。長島さん、いつも本当にありがとうございます！(中山)

みそ開きの時期です！

皆さんおうちの味噌の様子はいかがですか？二月にオンライン講習を行った際にジップロックで作った味噌も、だいぶ発酵が進んだので開けてみました。よく発酵して、ちゃんと味噌になっていました。ジップロックで作る際は、しっかりと空気を抜いておくことがポイントですね。

しかしながら、生協本部で手袋をして作った味噌だからか、自宅で作った味噌の味とは違うんです。菌が違うのでしょいうね。やっぱり自分で作った味噌は味も格別。だから来年もつくっちゃうんだよなあと思った、今年の味噌開きでした。



『理事会よもやま通信』へのご意見・ご感想は、OCR用紙の「意見・要望・連絡欄」、ネット注文の方は「ご意見のページ」にご記入をお願いいたします。